琉球大学学術リポジトリ

日本人腎移植患者のミコフェノール酸モフェチル投与量に及ぼす体重の影響

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2016-10-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 山田, 智史, Yamada, Satoshi
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/35445

平成28年8月12日

（別紙様式第７号）

論　文　審　査　結　果　の　要　旨

報告番号	課程博 ＊　第　号 論文博	氏名	山田　智史
論文審査委員	審査日	平成　28年　8月　4日	
	主査教授	植田真一郎	印
	副査教授	岸本英博	印
	副査教授	大屋雅博	印

（論文題目）

Implications of Clinical Mycophenolate Mofetil Dose According to Individual Body Weight in Japanese Renal Transplant Recipients

（日本人腎移植患者のミコフェノール酸モフェチル投与量に及ぼす体重の影響）

（論文審査結果の要旨）

上記論文に関して、研究の背景と目的、研究内容、および研究成果の意義について慎重に検討し、以下のような結果を得た。

研究の背景と目的

腎移植後の維持期において TDM の指標である MPA-AUC30-60 μg/mL を算出するために外来患者から数回採血することは臨床上非常に困難である。そのため、ミコフェノール酸モフェチル（MMF）は一般的に TDM を実施せずに固定用量で投与されている。しかしながら、これまでに体格の大きい白人とアジア人では同じ投与量でも MPA-AUC が異なることが報告されていることに加え、日本人の維持期患者の MPA 血中濃度が測定された報告は少ない。そこで、本研究は日本人の腎移植後維持期患者の MPA 体内動態を明らかにし、体重が MMF 投与量に及ぼす影響と体重を考慮した MMF 投与量の指標を検討している。

研究内容

本研究は、まず琉大病院薬剤部において HPLC による MPA 血中濃度の測定系を開発し、MPA 血中濃度から MMF 投与量と MPA-AUC と体重のそれぞれの関係性について詳細に検討している。その結果、低体重患者は高体重患者に比較し同投与量で MPA-AUC が上昇したことから体重は MPA-AUC に影響を及ぼし、さらには MMF 投与量/体重比である 10-16 mg/kg は MPA-AUC 30-60 μg/mL を約 75%達成することを明らかにした。

研究成果の意義

本研究における研究意義は、琉大病院薬剤部において MPA 血中濃度の測定系が開発されたことで MMF 服用中患者の TDM を可能にしたことと、これまで明らかにされていなかった日本人の腎移植後維持期患者の MPA 体内動態を明らかにしたことである。特に、これまで体格の違いに関わらず固定用量で使用されていた MMF に体重あたりの指標を導き出したことは、外来患者において MMF の投与量を決定する上で新たな指標になりえると考えられる。これらの結果から、本研究の学術的意義は高いと評価される。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

備　考　1　用紙の規格は、Ａ４とし縦にして左横書きとすること。
　　2　要旨は800字～1200字以内にまとめること。
　　3　＊印は記入しないこと。